

語り継ぐ魂

わかやまスポーツ伝承館

今回はこれまでの『語り継ぐ魂』とは少し違った内容で原稿を書きます。スポーツに關係するといえはそうなのですが、これから書くことは私の個人的な体験談です。

以前、1964(昭和39)年の東京オリンピックを呼んだ男として御坊市名誉市民のフレッド・和田勇を全4回の連載で紹介させていたいただきました。この記事についてはたくさんの方から反響があり、特に、御坊市の方からは感謝のお言葉があり、大変恐縮しました。

そついうご縁があつて、なんと、11月17日に御坊市で開催されたシンポジウム「東京オリンピックを呼んだ男 和田勇に学ぶ」のパネルディスカッションに「パネリストとして出演してもらえないか」と依頼がありました。驚きと同時にこんな私がそんな

大役、務まるのだろうかと不安が勝る気持ちでした。

実は私は、こついつ紙面上で原稿を書くことは、事前の下調べができ、間違ひは修正できるのでまた得意の範疇なのですが、人前に立って考えを述べるのが苦手で、このお話を受けるべきか戸惑いました。

しかし、この『語り継ぐ魂』でのご縁を大切に、私にできる最大限のことはやってみよう、そして、和歌山県にゆかりの偉大な人物を後世に伝承するのも私の役目だと思ひ、覚悟を決めてこのお話を受けることを決意いたしました。

当日、パネルディスカッションには和田勇の次女、メアリー・マリコ・ローズさんも

和田勇シンポジウム

人を動かすスポーツの力



和田勇の次女、メアリー・マリコ・ローズさん(左)とともにパネルディスカッションに参加した畔取さん(わかやまスポーツ伝承館提供)

来日し、参加されていました。そのときにもお話ししたのですが、和田勇が1964年のオリンピックの東京開催誘致に全力を注ぎ、実現したおかげで、日本は世界に認められる国に発展しました。スポーツの力が人を動かし、国を変え、希望とやる気を起こさ

せた一大イベントでした。今回私がいただいたパネリストという大役も、これまでの『語り継ぐ魂』でいろいろなお話を紹介し、偉人などを記事で紹介し、それを読んでくださった方とつながりができたおかげです。これもスポーツを通して、人を動か

かし、希望とやる気を起こさせた一つではないかと思ひます。

初めて経験したパネリストはおでこに大きな初心者マークが見えるほど頼りなく、笑顔も引きつっていたかと思ひます。しかし、一度経験したことはゼロとは大きな違いがあると思ひました。

この『語り継ぐ魂』は、昨年からは原稿を書かせていただき、今回で29回目となります。わかやまスポーツ伝承館に来館される方の中には、この記事を楽しみに読んでおられる方もいらっしゃると思ひます。また私にやる気を起こさせてくれます。

スポーツはいろんな形で人を動かし、人の意識を変えます。今回は私がその当事者です。

これからも、読者の心を動かせるような記事をお届けできよう、経験を積んでいきたいです。

(わかやまスポーツ伝承館 事務局長 畔取由佳)

◇ 今回は25日付で掲載予定です。

和歌山

地域ニュース